

栄光園だより
第125号

2021年10月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

「私たち抜きに 私たちのことを 決めないで」

大分県で開始した
アドボケート訪問の意味



大分大学 福祉健康科学部 社会福祉実践コース
博士(社会福祉学) 専任講師 栄留 里美

「親のことか言っても、
全部丸め込まれるから、
もうあきらめる。」
(高校生男性)

これは、3つの児童養護施設の子どもたち25人のインタビュー調査を行った時の言葉だ。「丸め込まれる」はよく聞いた言葉だった。子どもたちがおとなに望むことは一方的ではなく「こっちの言うことも聴いてほしい」ということだった。

ルールについても「子どもに意見を聞かずに、職員たちで勝手に話を進めてんの。むかつくな」(小学生女子)と

「私たち抜きに 私たちのことを決めるな」

思い出すのは、障害者運動のスローガン「私たち抜きに私たちのことを決

めるな」という言葉だ。この言葉は、今やイギリスやアメリカの社会的養護当事者団体が掲げる言葉としても使われる。この言葉が象徴する「参画」が必要なのである。

2016年改正児童福祉法では、ようやく子どもの「権利」が盛り込まれ、子どもの「意見」を「尊重」という文言も規定された。社会的養護の場面でも、措置に至る過程「アフターケア、すべの段階で子どもへの丁寧な説明と意向の聴取、一緒に考える「参画」の姿勢が求められる。欧米では子ども自身が援助方針にまつわる会議に参加している国が少なくない。ただ、形式的に子どもが「いる」だけになることもあり、イギリスでは会議や苦情解決などの場で、子どもの側だけに立って子どもの参画を支援する、独立アドボケートをつけることができる。施設等に定期的な訪問を行う訪問アドボカシーもある。行政や里親家庭・施設からは独立したNPOが主にアドボカシーサービスタとして委託されている。

子どもの側に立つ存在、 アドボケート

アドボケートとは子ども側だけに立つ、施設や行政とは独立した存在だ。深刻な虐待以外は施設には子どもが話したことを伝えない。子ども自身が伝えたいことがあるれば、それを施設や児童相談所に伝え改善を求める。

厚生労働省の「子どもの権利擁護に関するワーキングチーム」(2021年5月)ではアドボケートを意見表明支援員といい、今後、制度化することになっている。

栄光園でも始まった アドボケートの訪問

大分県では昨年度から「アドボケート」の導入が国のモデル事業としていち早く開始した。大分大学がアドボケートの養成や派遣を実施している。栄光園でも子どもたちにアドボケートの説明を行い、相談を受ける活動が始まっている。

もちろん、普段、子どもたちの支援を懸命にされている施設職員の皆様が子どもにとって最も身近な「アドボケート」であることには変わりない。外部のアドボケートは「監視役」というわけではなく、子どもの声をひろうチャンネルが増えたということである。「お世話してもらっているから言いづらい」「言っても変わらない」と感じている子どもが活用するオプショナルだ。子どもが声をあげることがあきらめない施設・社会になるよう、職員の方々とともに創造していきたいと考えている。

栄留里美／子どもアドボケートの研究・養成・実践に取り組んでいる。

【著書】

「社会的養護児童のアドボカシー」意見表明権の保障を目指して」 明石書店

共著「アドボカシーってなに？」 解放出版(2021年) 他

児童養護施設

食物アレルギーを持つ児童と共に

ウエストホーム 三ヶ尻 圭
児童指導員

今年度ウエストホームでは、重度の食物アレルギーを持つ児童をホームに迎えました。この子を受け入れるために園内、ホーム内で食品の取り扱いや調理のやり方、アナフィラキシーショックが起きた時の対応等を栄養士、看護師と連携して準備を重ねてきました。アレルギーの入った食材がある時には、調理場所をホームの台所と本館の厨房の二か所に分かれて調理をし、アレルギーが混入しないよう配慮して食事を作り、配膳時には配り間違えないように皿を変えるなど様々な配慮をして日々過ごしています。

しかし、本人にとっては、「自分が理由でほかの児童がアレルギーを含んだ食べ物を食べられない」「お菓子の交換も他の子ができるけど自分ではできない」というアレルギーを起点とした息苦しさはぬぐいきれません。彼の安全を守りつつ、彼の生活でアレルギーを理由に様々な経験をする機会が失われないためにどうすればよいかをホーム職員皆で悩み続けています。アレルギーの除去対象食材が複数あるため、アレルギー負荷試験を経て、食事制限を緩めることが徐々に出来る



ています。食べる事ができるようになったものを早速買って嬉しそうに食べる様子を見た時は私も嬉しさがこみ上げてきました。今後も彼のアレルギーを起点とする息苦しさは続いていくだろうと思えます。だからこそ彼が持ち続けることになる「食物アレルギー」というものと一緒に考え、アレルギーによる様々な制限という壁を乗り越え、共に喜び歩んでいけたらと思っております。

頼りにされる職員と なれるよう頑張ります

キャサリンホーム 保育士 中野町 将太

私が栄光園で働き始めて1年と半年余りが過ぎました。ここまですり返ると様々な初体験をしてきたことに気が付かれます。

子どもとの関わり方はもちろんですが、児童の将来を考え職員の方々と連携し日々動くことや医療機関等と連携し児童にとって最高の養育とは何かを考えること。

働いていく中で日々初めての体験と学びがそこにはありました。初めてだからということを言い訳にせず、1日でも早く先輩方に追いつけるようにがむしゃらに走って来ました。時に間違いをしましもうこともあり、落ち込む日もありました。それでも私がここまで働くことが出来たのは、間違いなく他の方々の支えがあつてこそだと思っております。まだまだ未熟な私ですが、受けた恩を1日でも早く返すこと、子どもたちから憧れを持ってもらえるような頼りにされる職員とな

れるようにこれからも日々精進をしていく所存です。至らない私ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

夏祭り楽しかったよ!

8月16日ヨーヨーや金魚(プラスチック製)、吹き戻しのおもちゃの寄付をいただきました。これで子どもたちに祭りの露店の雰囲気味わってもらおうと早速ヨーヨー釣りの針金や、金魚すくいのポイを作り、祭りの準備を整えました。

そして、その日のうちに子どもたちにヨーヨー釣りと金魚すくいを体験してもらうことになりました。

ちょうど子どもたちに浴衣のご寄付をいただいていたのでこの機会に浴衣を着て夏祭りに参加してもらいました。子どもたちの浴衣姿で、一気に夏祭りの雰囲気になり子どもたちも大喜びでした。

新型コロナウイルスの感染拡大で、夏祭りはもちろん、どこにも遊びに行けな



かった子どもたちにとっての大きな贈り物となりました。皆様のご厚意に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

ジャガイモの植え付け 〜大きなあれ、キュッキュッ

9月12日、ジャガイモの植え付けをしました。ジャガイモを植える準備をした敵に穴を掘って植えていきました。最後に土をかけて「大きなあれ、キュッキュ」と土を押さえ植え付け完了です! みんなで植えたジャガイモを収穫する日が今から楽しみです。順調に成長してくれることを願っています。



乳児院

野菜収穫したよ

ぞうグループ
リーダー 福本 有輝

7月に育ててきた野菜(トマト・ピーマン)も大きくなり、収穫をしました。
みんなで苗を植え、肥料を入れて水を散歩の途中でかけたりするのが日課でした。そうのジョウロを使って皆楽しそうに水をかけていました。梅雨時期で外に出られない時は、部屋の窓からみんなが「おおきくなーれ」と声をかけたりもしていました。



収穫したトマトとピーマンは栄養士さんがおいしく調理してくれて皆「おいしい」と言っていて良かったです。

りすグループ
リーダー 渡邊 由季

水遊び

コロナ禍のため、子どもたちは中々社会体験や園外保育の経験をする事が出来ず、園内中心に遊んでいます。感染対策を徹底しながら、少しでも色々な経験が出来るよう工夫していきたいです。

今年の夏は長雨や病気の流行で本来なら、水遊びを満喫するはずがほとんどできないまま夏が過ぎてしまいました。



そんな中でも職員は、天気や子どもの体調を見ながら、ぬるま湯を使っての水遊びや泥遊び等、夏の遊びを工夫しました。

おでかけ

コロナ禍で、園外に出かけることも難しい状況が続く中、職員と担当児とで感染対策を取り、密にならない海沿いの公園に出かけました。初めて見る波や砂浜の感触を楽しんだり、打ち上げられた貝殻を拾ってみたりと乳児院内では味わうことのできない夏を体験しました。

職員は日頃から色々な遊びを取り入れています。できればまたコロナ以前のようにならぬ園外に出るより楽しい体験が味わえるような日が戻って来ることを願っています。



聖書の言葉

「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と
思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。」

別府不老町教会伝道師 尾崎 二郎

(テモテへの手紙二一章七節)

私たちがコロナ禍の中を歩まされるようになってから19カ月以上の月日が過ぎました。そして、まだまだ予断を許しませんが、何か前途に出口のほの明かりが見えて来たようにも感じます。政府も出口戦略を具体的に練り、各企業もコロナ明けの活動を計画していることでしょうか。教会でも、また人々を教会にお誘いして集うことが出来る日を近くに感じ希望を持っています。栄光園の方々はこの時を如何お過ごしでしょうか。

このように、私たちはコロナ禍が過ぎ去った将来を思い描いて希望に満たされ、難事が去ろうとする喜びに安心を得ることでしょうか。ところが、臆病風というのはやっかいなもので、仮にその風が私たちの間を吹くようになり、私たちの心を捕えるようになってしまうと、「果たしてコロナ後の時代に私は適応して生きられるだろうか」とか「コロナ後の密な人間関係についていけるだろうか」等といった余計な心配事に心悩ますことにもなりかねません。それは確たる対象がない不安感が昂じていく過程にも似ています。

聖書が語る「おくびょうの霊」とは、この臆病風のようなものだと思います。

えます。一度このおくびょうの霊にとりつかれると、人はどんな辛いことをも否定的に解釈し、更に見えない不幸を自ら思い描いて、それに縛られるようになってしまいます。

では、主なる神であるイエス様は、私たちにどのような霊を下されたのかというところ、それは「力と愛と思慮分別の霊」です。この霊を一言で説明するのも至難の業ですが、譬で言えば、この霊とは心理学でいう「安全基地」のようなものだと思います。精神科医の岡田尊司氏は、私たちが他者と安定した愛着関係を築いていくには、各自にとっての安全基地となる存在が決定的に重要であることを繰り返し述べておられます。そして安全基地の条件として、応答性や共感性を挙げ、安全基地となる人は絶えず、その人を見守り、機を逃さずに応答していく必要があると説いています。

さて、私にとって安全基地となる存在は間違いなくイエス様であります。イエス様は、私たちが他者との安定した愛着関係を築くための礎となる安全基地なのです。イエス様の応答性や共感性は比類のないもので、私はそれによっていつも救われているのです。

青山保育所

野菜をありがとう

保育士 清原 里奈

5月に苗植えを行なってから、水やりや観察を通して子どもたちと生長を見守りながら育ててきたピーマンとオクラ。今年は大豊作となり、収穫しては実際に野菜の感触や匂いを感じながら、その都度クラスで調理したり、クッキングをして食べたりする機会をたくさん作る事が出来ました。



最初はピーマンやオクラに苦手意識を持っていた子が、徐々に食べられるようになり、「お家でも塩昆布と一緒に食べたよ!」と保育園で作ったものをお家でも試してみても嬉しそうに教えてくれる姿もありました。夏野菜の栽培を通して自分

たちで育て、実際に触れ、調理して食べるという経験が子どもたちにとって大きな経験となり、また一段と成長していく姿を見て、「食育」の大切さを改めて感じました。最後は、おいしいピーマンやオクラを実らせてくれた苗に、子どもたちと感謝の気持ちを伝えながら片付けを行いました。

楽しい夏まつり!

保育士 荒金 由妃

今年「海のお祭り」をテーマにして夏祭りを開催しました。夏祭りが始まる前からうさぎ組の部屋は、魚の壁画や天井飾り、子どもたちの作った提灯を飾り、うさぎ組の子どもたちが視覚的に楽しめるような雰囲気づくりをしてきました。当日は、5歳児のお神輿を見て青山音頭を踊り、夏まつりがスタートしました。各部屋には海のトンネルや魚釣り、屋台コーナーがあり、保育士と一緒に回りながら楽しみました。給食やおやつでもスペシャル感のあるものを食べて、夏の楽しい思い出がまた一つ増えました。コロナ禍で色々な物が制限される中ですが、行事などを通してより子どもたちにとって保育所が楽しい場所になればと思います。



真似して遊ぼう

主任保育士 二宮 孝介

日頃の保育の中で保育士は、子どもたちの前で色々な形でお手本になることが多いですが、模倣をすることは子どもたちが夢中で遊べるようになるためのきっかけづくりであることが望ましいと考えています。例えば運動会のプログラムの遊びに関して、子どもたちは最初保育士と一緒に体操をしている姿を真似して、真似をして体操をすることを積み重ねていくうちに自分で体を動かすことが楽しくなって保育士のお手本を見ずに体操をするようになります。保育士はこの「一緒に○○する」ということを大切にしていて、まずは子どもたちと一緒に楽しそうに遊ぶ。すると子どもたちがその姿を真似して遊びに夢中になっていく。夢中になったら保育士は少し離れて遊んでいる姿を見守るという流れができ、子どもたちが主体的に遊ぶきっかけを作りやすいと思います。子どもたちの遊びに保育士が参加したり、保育士が楽しいと思うことに子どもたちを誘ったりして、子どもたちが夢中になって遊ぶ機会をたくさん作れるように努めていきます。

お散歩バッグを作ったよ

保育士 尾原 亜紀

大きめのジップロックの袋を使ってお散歩バッグを作りました。1歳児のお友達はカラフルな丸シールを選んで貼り、



2歳児のお友だちは油性ペンを描きしめました。友だちとお話したり、「つぎは、あかてかく!」と考えながら楽しく作ったりすることができました。



栄光園グラウンドやお散歩に行く時に持って行き、ドングリや色づいた葉っぱなど秋の自然を見つけ、自然と触れ合い秋を満喫いたしましょう。

上手に丸めたよ!

保育士 松本 真人

十五夜の日クッキングで月見団子を作りました。粉がだんだんまとまっていく様子が最初は驚いていましたが、ち



ぎって丸めて団子になると「早く食べた
いね〜」小さい団子出来た!と団子作
りを楽しんでいました。丸めた団子は、お
やつの時間にいただきました。子どもた
ちの目の前で団子を茹で、あんこときな
粉で美味しく味わうことができました。

また、クッキングに取りかかる前に、5
歳児は玄関前のお月見飾りも上手に飾る
ことができました。

十五夜やお月見の由来を紙芝居で伝え
ていたので、子どもたちはお月見に興味
を示しながら団子を作っていました。こ
ういった関わりを繰り返しながら、こ
からの行事にも興味を持てるようにして
いきます。



野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

暑かった夏も終わり、秋も少しずつ深
まってきましたね。吹く風には金木犀の
香りも漂いだんだん秋が深まってきたよ
うに感じる今日この頃です。今年も残す
所2ヶ月、時が経つのは早いものですね。
毎日を大切に子どもたちと楽しく過ご
したいなと思います。

夏から秋にかけての子どもたちの様子
を少しずつですが、ご紹介していきます。

夏の遊び

晴れた日には、子どもたちが、楽しみに
していたプール遊びや色水あそび・シャ
ボン玉あそびなどたくさん夏ならではの

遊びを楽しみ
ました。今年
の夏は、雨の
日が多かった
ため、プール
納めを1週間
のぼし、プール
遊びも充分楽
しみました。



夏まつり

今年8月19日・20日に「夏祭
り」が行われました。

今年のテーマは「野口夏フェス」
みんなで夏を楽しもう〜。

1日目は園長先生と5歳児によ
る開会宣言、めろん組によるお神
輿や全園児の盆踊りから夏祭りス
タート! 各クラスの催し物や職員



が楽器を持っ
て登場し、自
分たちで作っ
た手作り楽器
を使ってみん
なで演奏して
楽しみまし
た。



2日目は準
備から一緒に
手伝ってくれ
た5歳児の子
どもたちと職員によるちびっこ屋台が
オープン! お面・ヨーヨー・アイスクリ
ム屋さん・お土産ゲット・金魚すくい、の屋
台のコーナーがあり、全クラスの子ともた
ちが楽しそうにお店を回っていました。5
歳児の子どもたちもお手伝いを最後まで
楽しんで頑張ってくれました。



シェイクアウトに 参加しました

9月1日は防災の日。1年に1回災害
に対する心構えの準備をするための日と
して制定されました。同日別府市でも市
内一斉安全確保行動
訓練「シェイクアウト
ト別府」が行われ、
野口保育所も参加
しました。サイレン
の音に驚く子どもも
いましたが、保育士
と一緒に布団や机の
下に隠れ、その後は
静かに避難しました。



毎月避難訓練をしていることもあり、
保育士の話聞いて静かに避難したり地
震の時の約束など子どもたちはしっかり
覚えていました。避難訓練の大切さを感じ
ながら、毎月取り組んでいきます。

お月見会

9月21日にお月見会をしました。子ど
もたちは、由来の話や秋の食べ物の話を



聞いたたり、5歳児と担当の保育士と一緒に簡単なクイズ出すと「わかる！」と手を挙げて大きな声で答えていました。

この日の給食は、「おつきみランチ」！ 5歳児が各クラスをまわって配膳といただきますの挨拶をしてくれ、子どもたちはとても喜んで食べていました。



運動会へ向けて

今年10月23日(土)に運動会を開催します。今年の野口保育所運動会のテーマは「オリンピック」です。コロナ禍の中日本で行われたオリンピックで盛り上がったスポーツを野口保育所でもコロナに負けず、子どもたちと一緒に体を動かして盛り上げたいと思います。

保護者の方にはご理解・ご協力をして頂き、コロナウイルス対策を行いながら、子どもたちが最後まで楽しんで取り組めるよう職員一同頑張つて参ります。応援よろしくお願い致します。



地域支援活動 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

7月の活動

7月のくるみは、遊びラボの小田原さんにおいていただき、「みつろうラップ」を作りました。

SDGsや地球環境についての話を聞き、海洋汚染が進んだらどうなるのかなど地球環境についてみんなで考える時間となりました。

ところで、皆さん「蜜蝋」をご存じですか？ 蜜蝋(ミツロウ)は、ミツバチが六角形の巣を作る材料として、働き蜂の腹部にある分泌腺から分泌するロウのこ



とです。この自然由来のロウを使って何度でも洗って使える「みつろうラップ」を作ることになりました。

予定していた人数よりたくさん子どもたちの参加があり、製作工程のアイロンをあてる部分でこずりましたが、何とか予定時間内で仕上げる事ができました。出来上がった作品を有効に使って下さいね。

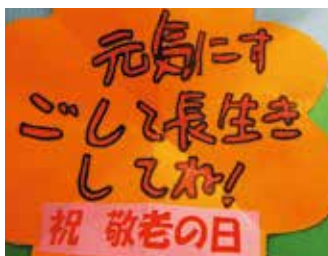
今回の取り組みは、改めて地球環境について考える良い機会となりました。今現在起きている様々なことをいろいろな視点から考えていくきっかけになったのではないのでしょうか。

9月の活動

9月は、コロナウイルスの感染状況を鑑み活動を中止いたしました。

しかし、9月は、敬老の日がありますので、以前から交流のある一燈園(堀田)のおじいちゃんおばあちゃんにメッセージをお届けすることといたしました。子どもたちにメッセージを書いてもらったところ素敵な言葉をメッセージカードに書いてくれました。子どもたちの優しい思いが詰まったメッセージカードが出来上がりました。

そして、そのメッセージカードをその翌日19日に、堀田一燈園さんに児童の代表者2名と職員で届けさせていただきました。全員抗原検査



祝 敬老の日 おじいちゃんおばあちゃん いつまでもお元気で!



査を行い陰性を確認したのち一燈園さんに向かいました。堀田一燈園では、コロナ感染防止の観点から館内に入ることができないので入居者の皆さんが玄関前まで出てきてくださりカードを皆さんにお渡しすることができました。一燈園の皆さんも笑顔で顔がほころんでいました。コロナが落ち着いたらいろいろな形で交流していきたいですね。その日を楽しみにしています。

子どもは「社会の宝」!

子育ては親だけが担うことだと思っていないませんか?

そつではありません。子どもを育てることは未来の日本を支える人材を育てることです。社会の一人一人、みんなが主役なのです。子どもの成長を社会全体で支え喜び合いましょ。

子育ては未来の日本を支える人材を育てる重要な営みです。また、現代の子育てをめぐる社会状況を踏まえると、子育てが家庭の「支え」となる新しい人間関係、家族関係、地域社会をつくっていくことが必要となっています。こうしたことから、「子どもは社会の宝」として、社会全体が家庭における子育てや教育を応援し、支えていくことが求められていると思います。

そして、親が「子育ては苦しい面もあるが楽しい」と感じ、子どもや親の気持ちに安らぐようにすることや、若い親が過度に緊張せずに、気楽に子育てができるように配慮すること、現代の若い世代が置かれた状況を理解し、多様なライフスタイルや意識に応じた支援をすることが重要です。また、たとえ時間はかかっても親自身による選択や親の自立に対する支援をするという視点が大切ですし、子育ての当事者に軸をおいて施策を進めることが大切だと考えます。

(文部科学省ホームページより)

幸福度の高い子どもを育てるには?

「心理的なコントロール」をしないことだそうです。

Mai Stafford氏を中心とした研究チームによれば、成長期に心理的なコントロールを受けた経験が少なく、親からの思いやりを受けた子どものほうが大人になってからも幸福度が高く、一方で、心理的なコントロールをされるが多かった子どもは精神的な健康状態が、その後も含めて良くない、という結果がでたそうです。

「心理的なコントロール」とは、たとえば、門限を決めることは行動をコントロールしているということであってこれは必要なことです。ここでやってはいけないことは、門限を守れなかった子どもに罪悪感を覚えさせることです。これがまさに心理的なコントロールなのです。

研究をされたMai Staffordさんは、「もし、子どもが親と感情をうまく共有していれば、その後もうまく他人との感情共有ができるようになります。思いやりと責任感を与えることは、社会的・精神的発達を助けることにつながるのです。反対に、心理的なコントロールは子どもの自立と社会的規範の発達を妨げることになるでしょう」

大切なことは、なぜ制限をするのか、なぜその期待をしているのか、ということをちゃんと子どもに伝え、対話することです。先ほどの門限の例で言えば「夜遅くに子どもが出歩いていると危ないから門限を決めた」ということを、しっかり話してあげることで、誰だって、意見を尊重されなかつたら無視された気持ちになります。それは子どもだって一緒です。

もし意見が違つなら、それを認めつつ「違つ考えを持つことは間違いではない」と教えてあげることが大切です。相手を尊重することは、思いやりを感じさせる効果的な方法のひとつだと述べられていました。

私自身、子育てを終えた今、振り返ってみると反省することばかりです。子どもへのかかわり方を考えてみませんか?
(原田康子)



集いの場 くるみ活動予定

10月の活動

10月31日にハッピーハロウィンのイベントを計画しています。

英語教室を開いている方のご協力を得て今回の活動を開催いたします。少しでも英語を身近なものに感じてもらいたいと考えています。子どもたちの反応が楽しみです。

11月の活動

11月20日に栄光園グラウンドでデイキャンプを計画しています。野外調理体験などを考えています。



2021年度10月 職員の動静

● 乳児院
芝尾 康司(調理員等) 8月14日付

クリスマス祝会中止のお知らせ

今年度は、例年12月に行っておりますクリスマス祝会は、コロナウイルスの感染状況を鑑み中止いたします。

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員への励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2021年7月1日より2022年6月30日まで】

賛助金

- 安部道人様 大分市
- 増田百枝様 日田市
- 山口産業(株)様 別府市
- (有)後藤商店様 別府市
- 今橋沙歩様 別府市

一般寄付

- 伊勢方信様 別府市
- 猪股通安様 別府市
- 岩田哲也様 大分市
- 影山隆之・由利様 大分市
- 加藤敏夫様 竹田市
- 里の駅ふるさと市場様 国東市
- 鈴木規夫様 別府市
- 匿名様 別府市
- 匿名様 別府市
- 内藤一男様 大分市
- 中山健一様 佐世保市
- 被相続人原田恒男氏遺言執行者中嶋謙介様 大分市
- 松本常圃様 別府市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 神鳥慶子様 杵築市

特別物品寄付

- くろーばー薬局様 別府市
- 平川順子様 別府市
- 府内産業株(株) 大分市
- 子ども用衣類 高木良司様
- 洋服 税理士法人シーウェイブ 瀬山 豊様
- 洋服 税理士 瀬山美恵様
- 洋服 池田幸香様
- 洋服 佐藤ゆかり様
- ベビーポンチョ 友永優子様
- 子ども服 pourvousのお客様
- レトルトビーフシチュー (株)クラウングループ様
- 洋菓子 ラフリーテーブルルームアンドデリ 山本花織様
- アイスクリーム・シャインマスカット 福本陽子様
- 豚肉 NPO法人しげまき子ども食堂「げんき広場」様
- そうめん 菅信介様
- 赤しそ・青じそ・玉ねぎ・にら・卵・かぼちゃ (株)九州錦運輸 二宮洋典様
- 野菜 川本順平様
- パン ココラート様
- 野菜・なす BNR様
- 広辞苑 井上せつ子様
- 布マスク・布バック・ペットボトルカバー 萩本憲次様
- パン 友永パン屋様
- きゅうり 匿名様
- 薬に勉強する方法 原豊文様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- 菓子 ユーコーラッキーウエスト上ヶ浜店様
- ホットカーペット他 長尾健治様
- ゆかた (有)ビューティフルライフ・中晴千恵美様
- アイスクリーム 匿名様
- なし・ぶどう 中山田正春様
- ヨーヨー・金魚・笛 愛の里サンヴィラ様
- 紙火・栗 山本宣雄様
- 紙 後藤正己様

招待・奉仕

- JETBOOKしおり JETBOOK作戦様
- 食パン 銀座にしかわ様
- アイスクリーム (株)明治西日本支社(アイスクリーム協会)様
- 米 田中喜久男様
- 梨 里の駅ふるさと市場 木付弘子様
- 乳児用衣類 立山愛様
- 乳児用衣類 山本恵美子様
- 乳児用衣類 後藤徹周様
- 乳児用衣類 田中浩子様
- タオル (有)ムラセ運輸 村瀬久美子様
- かぼちゃ 匿名様
- 本・学習漫画 Atsushi Ohara様
- 子ども用靴、スタイ 池田絢子様
- 乳児用衣類 渡辺英喜様
- 栗 NPO法人麦の会様
- 菓子 たんぼば食堂(子ども食堂)大柳恵子様
- ぶどう 葡萄園「ぶどうの丘」様
- 小中学習ボランティア 安東秀典・井上せつ子・山口香様
- 児童の散髪 WEST VILLAGE様
- 書道 Beauty MORE様
- ピアノレッスン 荒金節子様
- 金曜学校 奥山靖子様
- ” 尾崎二郎様
- ” 庄司宣充様
- ” 吉武二郎様
- スポーツボランティア ティム・ディック様
- ” 猪股通安様
- 集いの場くるみ 平川義文・平川順子様
- ” 小手川裕子様
- ” 姫野喜昭様



賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。
口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 0193002120748



苦情等相談窓口
*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

子どもの権利擁護のためのアドボケイトの取り組みが始まりました。子どもの意思を尊重し、保障するための仕組みとしてとても有効な取り組みだと思えます。子どもを権利の主体にすることは、自分の人生についてしっかりと考えていく機会となることでしょう。子どもたちに幸せな人生が待っていることを願っています。
(原田)